

教育ビジョン研究センターは、By EVRI, For Everyoneを合言葉に、革新的な教育デザインの提案と社会貢献を使命とした研究拠点です。本拠点は、3つのユニット、6つのクラスターで構成されます。ロゴは、6つのクラスターが相互に作用しつつ1つの研究拠点を形づくり、広島を起点に、地域の、日本の、そして世界の教育を創造していく姿を現します。



カンボジアにおける持続可能な社会構築のための社会科カリキュラム・教科書開発支援事業に協力しました(7)

活動日時 2018年2月14日(水) – 2月26日(月)



活動従事者 桑山尚司, 大坂遊 (教育研究推進員), 升谷英子 (広島県東部教育事務所・指導主事)



広島大学インキュベーション研究拠点「教育ヴィジョン研究センター (EVRI)」は、ひろしま平和貢献ネットワーク協議会が受託したJICA草の根技術協力事業「カンボジアにおける持続可能な社会構築のための社会科カリキュラム・教科書開発支援」において専門家として協力しています。今回は、カンボジアにおける課題発見・解決型授業のあり方についての実践的なモデルの提案を目的として、EVRIメンバーの桑山、教育研究推進員の大坂、そして広島県東部教育事務所 升谷英子指導主事がカンボジアへ渡航しました。

調査の終盤となる24日には、升谷先生とプノンペンRTTC附属中学校の先生が、現在改訂中のカンボジア社会科シラバスと関連させたモデル授業を行いました。升谷先生は、中学校社会科地理の「中国」の単元を「経済特区の立地の特徴」という切り口から実践され、

地図やグラフなどの視覚資料を活用して子ども自身から問いを引き出して仮説を立てさせるなど、課題発見・解決型授業を実現するための具体的な手立てを提案されました。授業後の検討会では、参加者がワークショップ形式でそれぞれの授業の共通点や相違点、取り入れてみたいところを整理して発表しあい、学びの成果を確認しました。

あわせて今回の渡航では、桑山先生および升谷先生がプノンペンRTTC附属中学校において授業の観察を行いました。その結果、これまで調査した学校と同様に、パターン化された知識定着型の授業が行われている実態が浮き彫りになりました。1月渡航時の調査結果とあわせて、このようなカンボジアの社会科授業の現状を教育省カリキュラム開発局のスタッフやRTTC附属中から現地の教員に報告し、課題を共有しました。



HIROSHIMA UNIVERSITY

教育ヴィジョン研究センター (EVRI)

739-8524

広島県東広島市鏡山一丁目1-1-1
広島大学大学院教育学研究科 気付

TEL/FAX : 082-424-5265

E-mail : evri-info@hiroshima-u.ac.jp

URL :

http://evri.hiroshima-u.ac.jp/

EVRI Facebook

